

学部学科適性試験

実施学部	文学部
実施学科	新聞学科
試験時間	75分
試験概要	ジャーナリズムに関する基礎的学力試験

(この問題冊子は4ページ、2問である。)

受験についての注意

1. 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙1ページ目の左上に氏名と受験番号を記入し、所定のマーク欄をぬりつぶすこと。
3. 試験監督者から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。
5. マーク式の解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
6. マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
7. 記述式の解答は、各解答欄にていねいに記入すること。数字、ローマ字については、1マスに2字とする。
8. 訂正する場合は、消しゴムでていねいに消したうえで、消しきずはきれいに取り除くこと。
9. 解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
10. 試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
11. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
12. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

問2 以下の文章を読み、述べられている内容と関連する任意の事例をあげて、1000字程度(横書き)であなたの考え(述べられている内容とその事例が関連するとあなたが考える理由を含む)を書きなさい。

田山花袋の「田舎教師」に、主人公の清三が夏休みの心得を子どもたちに説く場面がある。「毎日一度ずつは、本を出してお復習(さらえ)をなさい。それから父さん母さんに世話をやかしてはいけません。桃や梨や西瓜(すいか)などをたくさん食べてはいけません」。明治30年代の話だ。

学校の「夏季休業」は欧米にならったものだという。この時代にはすっかり定着していたらしく、物語には休みに入る前のざわざわした雰囲気が描写されている。教師が伝える注意事項もいまと似たようなものだ。親に世話をかけるなど強調しているところを見ると、当時の家庭も子どもが家にいる毎日は大変だったろう。

令和のこの国で聞こえるのは、しかし、もっと切迫した声である。認定NPO法人「キッズドア」の調査によれば、小中学生のいる困窮世帯の約6割が、子どもの夏休みの廃止や短縮を望んでいるという。「生活費がかかる」「特別な体験をさせる経済的余裕がない」。親たちからはこんな訴えがあまた寄せられたそうだ。

旅行やイベントなど、家族で貴重な思い出を残せる夏休み。しかし、それがかなわぬ世帯は多く、子どもたちの「体験格差」は広がるばかりなのだ。貧しかった明治の昔にも考えられなかった光景かもしれない。ちなみに花袋の小説では、小学校の先生たちも夏休みを思い思いに楽しんでいる。社会は進歩したのだろうか。

(日本経済新聞「春秋」2024.7.5)